

大船中央病院 市民公開講座

# 「脳卒中とその治療」

11月28日午後2時から 要予約

## 最新の治療法も紹介

脳卒中とは脳梗塞やくも膜下出血など、脳血管の急激な状態の変化をいう。昭和40年代をピークに減少傾向にあるものの、年間約12万人が亡くなるなど、依然として日本人の死因の上位を占めている。

「脳卒中は、発症すると重症化し寝たきりになることも多い病気です。いつまでも健康で元気に暮らすために、予防と重症化する前の対処が重要です」と高室医師は呼びかける。

最も簡単な予防法は「水分をとること」。脳梗塞の場合、血液の濃度が高まると、血管の詰まりが引き起こされやすいため、定期的な水分の摂取が必要だ。しかし高齢になると、夜にトイレに行くのが面倒だったり、喉の渇きそのものを感じなくなったりして脱水症状を引き起こすことが多いという。そのほか高血圧や糖尿病などの生活習慣病を抱えている人もリスクが高く、注意が必要という。

また「自覚症状があった際に早めの対処を」と高室医師。「脳卒中の前症状として『急に力が抜ける』『口が回らなくなる』『しびれを感じる』などが現れることがあります。こうした症状を感じたら、すぐに脳外科

医に相談してほしい」と訴える。

当日は血栓を薬で溶かす「t-PA治療」に加えて血管に直接デバイスを入れて取り除く「血栓回収療法」など、最新の治療法についても講演する予定。高室医師は「脳卒中が発生する仕組みや予防のために気をつけるべきことなど、映像も使いながら分かりやすく説明します」と話している。参加は要予約。問い合わせ、申し込みは左記へ。



社会医療法人財団  
互惠会

## 大船中央病院

要予約 ☎0467(45)2111(代)

平日 午前8時半～午後5時(土曜は正午まで)定員になり次第 締切  
メールでの申込は受講日・参加者氏名・連絡先を明記  
✉shiminkoukai@ofunachuohp.net

大船中央病院で11月28日(土)、恒例の市民公開講座が開催される。会場は同病院アネックス館6階講義室。時間は午後2時から約1時間(開場1時30分)。  
今回は「脳卒中とその治療」と題して、同院脳神経外科部長代行の高室暁医師が講演する。



脳神経外科 部長代行

## 高室 暁 医師